

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-134202

⑤ Int.Cl.⁴
B 27 K 5/00
// B 27 K 5/02識別記号
庁内整理番号
C-6754-2B
E-6754-2B

⑬ 公開 昭和62年(1987)6月17日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 ナラ材化粧単板の処理方法

⑰ 特 願 昭60-274728

⑱ 出 願 昭60(1985)12月6日

⑲ 発 明 者 岩 本 久 生 岩国市飯田町2丁目8番1号 山陽国策パルプ株式会社内
⑳ 出 願 人 山陽国策パルプ株式会 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
社
㉑ 代 理 人 弁理士 船橋 國則

明 細 書

1. 発明の名称

ナラ材化粧単板の処理方法

2. 特許請求の範囲

(1) ナラ材の単板を、アスコルビン酸、次亜塩素酸ナトリウムおよびエチレンジアミン四酢酸ナトリウムの混合液内に浸漬することを特徴とするナラ材化粧単板の処理方法。

(2) 混合液はアスコルビン酸1～5重量%、次亜塩素酸ナトリウム0.5～3重量%およびエチレンジアミン四酢酸ナトリウム0.1～0.5重量%からなる特許請求の範囲第1項記載のナラ材化粧単板の処理方法。

3. 発明の詳細な説明

(技術分野)

本発明はナラ材単板を混合液内に浸漬して単板が有する暗色部をそれ以外の部分に近似する色調へ変化させる処理方法に関するものであり、こ

れにより木質化粧単板の商品価値を高めるとともに、木質資源の有効利用を図ることを目的とする。

(従来技術及び問題点)

従来、ナラ材の単板は合板等に接着して所謂化粧合板に形成され床材、壁材等の多くの用途に使用される。しかし、ナラ材は産地、貯材方法等により黒色斑点を有するものが多く、これらの黒色斑点を取り除くには、単板の有する天然木特有の色調を損なわずに処理することは極めて困難であり、むしろ通常の漂白、着色等の技術ではナラ材全体の天然木色調を損なうことが多いため、単板歩留りの点で問題を残していた。

(問題点を解決するための手段)

本発明は上記の種々問題点を解消するためになされたもので、アスコルビン酸、次亜塩素酸ナトリウムおよびエチレンジアミン四酢酸ナトリウムの混合液がナラ材の黒色斑点処理に優れた薬剤であることを見出し本発明を完成するに至った。

(実施例)

以下に本発明を一実施例にもとずき詳細に説明する。

先ず本発明に用いられる混合液は、アスコルビン酸、次亜塩素酸ナトリウムおよびエチレンジアミン四酢酸ナトリウムを各比率により混合して得られる水溶液であり、その濃度は、アスコルビン酸1～5重量%、次亜塩素酸ナトリウム0.5～3重量%およびエチレンジアミン四酢酸0.1～0.5重量%から成る。

本発明の混合液では次亜塩素酸ナトリウムの添加量が特に重要であり、ナラ材特有の天然木色調、照り等を損なわないため緩和な条件で処理することが肝要である。このため次亜塩素酸ナトリウムの混合比率を0.5～3重量%の範囲内に限定する。すなわち次亜塩素酸ソーダの濃度が0.5%以下になると処理に長時間を必要とするとともに黒色斑点の除去が十分でなく、また3%以上になるとナラ材特有の色調が損なわれることとなる。

黒色斑点を有する厚さ0.25mmのナラ材単板50枚をアスコルビン酸2%、次亜塩素酸ソーダ1%およびエチレンジアミン四酢酸ナトリウム0.1%から成る混合液中に常温で24時間浸漬処理し脱水した後、厚さ12.5mmを有する合板上に尿素メラミン樹脂接着剤により熱圧接着し化粧合板を得た。得られた化粧合板はその表面に黒色斑点を全く有しなく、全体として色調の統一された美麗なものであった。

さらにアスコルビン酸およびエチレンジアミン四酢酸ナトリウムは、変色抑制効果とともに漂白効果を付与するものであるが、ナラ材の単板に生じた黒色斑点を除去するに際しては各々上記のような混合液調製が望ましい。ナラ材の単板を混合液に浸漬処理するに際して、先ず厚さ0.25～0.5mmを有する単板を50～100枚程度一度に処理浴中に浸漬するが、通常入手しうるようなナラ材の場合は6～24時間程度の処理時間であれば十分である。そして浸漬処理終了後、処理した各単板をタンバクル等の圧縮により脱水して処理液を繊維飽和点程度とした後常法により合板等の基材上に接着する。

本発明に供される混合液は上記成分以外に、例えば単板内部への浸透性を促進させる等の目的に応じて各種の界面活性剤、凍結防止剤、pH調整剤等を添加することもある。

(効果)

次に本発明の効果を具体的実施例により説明する。

特許出願人 山陽国策パルプ株式会社
代理人 弁理士 船橋國則